

私は

なにがなんでも「宏りん」こと  
横浜市長「中田 宏」を擁護する

中田「いじめ」の主役たちを、暴露する



横浜市会議員

工藤 裕一郎

Kudo Yuichiro



発行所  
横浜市中区港町1-1  
TEL 045-543-7190  
横浜 市 庁 舎 内  
港 記 者 室  
主 筆 三 村 貞 夫  
TEL 045-671-3325  
FAX 045-663-4054

中田「宏りん」を擁護し「いじめ」の主役たちを、暴露する  
工藤議員の思惑は？本人の話。自分も被害者です。

「宏りん」いじめの主役と名指しされた人物  
中田宏市長恐喝事件チャート  
(黒幕は横浜市長後継を狙う菅義偉 衆院議員)  
神奈川新報 三村  
太田正孝市議  
江田憲司衆院議員

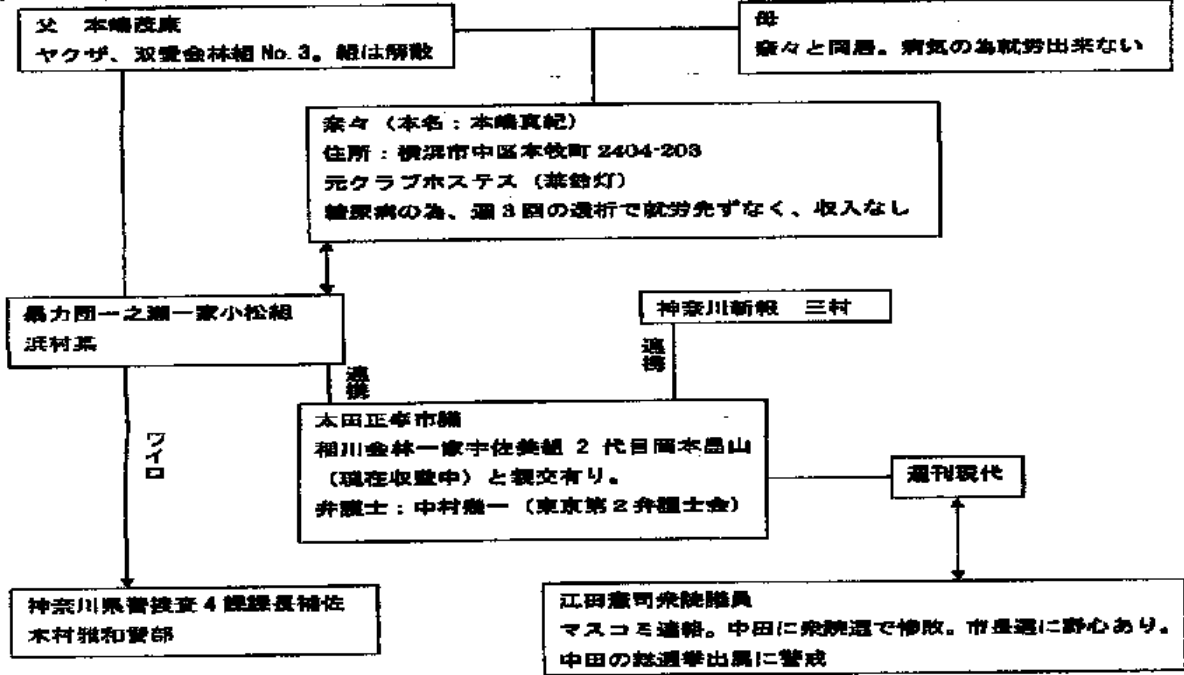
週刊現代(裏面参照)  
奈々嬢の提訴に対し、中田宏は弁護士(その名も高き人権擁護派の秋田一恵)に依頼、「請求を棄却」と答弁した。

経歴・秋田一恵 昭和34年1月17日生・中大法卒 同59年 司法試験合格・同62年修習終了(39期) 同62年 弁護士登録 番号20202 連合赤軍事件の被告人永田洋子の弁護士で死刑の判決・創価学会の池田太作名誉会長にレイプされたとする信平信子の狂言夫婦を原告に、訴訟を起こした民事裁判も、結局、訴権の濫用、と完膚なきまでに叩きのめされ、敗訴した。

事件の概要  
被告 池田 太作

(成 太作・父成田作・帰化後池田子之吉を名乗る・母池一・神奈川タイムス編集発行人新田一樹 通算608号より引用)

中田宏市長恐喝事件チャート(黒幕は横浜市後編を狙う菅義偉衆院議員)



**解説** 中田市長恐喝事件とは捏造。恐喝ではなく奈々嬢に対する中田 宏の不法行為である。黒幕が菅 義偉元大臣は関係なし。江田憲司衆院議員は中田 宏の総選挙出馬に警戒感・中田は眼中にない。神奈川新報三村は独自に調査の上報道し、稲川会との繋がりはない。本件は恐喝事件ではなく、小幡正雄元副議長の不倫疑惑を証明せよとの強迫によるもの。

信平信子とその夫である信平醇浩は、池田名誉会長がレイプ事件の加害者であるとし、同名誉会長に対し約7500万円の損害賠償を求め、平成8年6月5日、東京地裁に提訴した。信平によれば、昭和48年6月(同女46歳)に創価学会函館研修道場の建物内で第1回目のレイプをされ、昭和58年8月(56歳)に同研修道場内の喫茶ロール店内の床上で第2回目、平成3年8月(64歳)には同研修道場内の道端で第3回目の、暴行を受けたということである。3回目のレイプは、信平の告発によれば64歳のときということになるのだが、このときもありさまについて、「洋服、下着を破り取って、強姦した」と「訴状」には書いてある。ちなみに「訴状」はその時刻を「早朝7時半頃」としている。ところで足掛け17年のうちに3回も同一人物から手荒な強姦をされたという信平の話に信憑性を感じる人はまじくないだろう。加えて3回目のレイプが朝の明るいときに研修道場内の道端で「洋服、下着を破り取って」おこなわれたという信平の主張をまともに聞く者はなおさらいはないと思われる。「訴状」には、第3回目のレイプについて、「平成3年(1991年)8月17日頃、早朝7時半頃、原告信子が原告醇浩の運転する車で送られて、函館研修道場に着き、一人で同敷地内を歩いていたら、被告は原告信子の側面から突然襲いかかり、原告信子を地面に突き飛ばした。原告信子は横倒しになり、その時、頭を強打した。そして、被告は原告信子の首を絞め、原告信子はその強さと痛さで窒息状態となり、これは殺されるのではないかと、激しい恐怖を感じた。被告は原告信子の右手をとり、これを背中にまわさせて、上にかかり、被告自らの体重を利用して原告信子の抵抗を封じる等して、洋服、下着を破り取って、強姦した」。秋田弁護士は、「私もフィリピンの従軍慰安婦の弁護士の一員」と強調し、無実の者に強姦犯人の汚名を着せようとするこの反人権的謀略的な訴訟に加担し、……

本件訴訟は池田太作創価学会名誉会長を貶める目的で仕組まれたものであったが、「訴権の濫用」と前代未聞の判決となった。創価学会名誉会長を貶める為に狂言強姦事件をデッチ上げた信平の秋田弁護士が中田 宏横浜市長の弁護士である。創価学会(公明党)さん、いつて如何となす。